

京舞 タブレットコンテンツ

次のパフォーマンス：京舞きょうまい

京舞きょうまいは、京都発祥の伝統的な日本舞踊の一種です。

ほとんどの人は、芸妓げいこや舞妓まいこの演技を見ることで京舞を体験します。

「芸妓げいこ」は座敷で舞や歌、音楽、遊びによってお客様を楽しませる伝統的な舞台芸術家です。

他の地域では、芸妓げいこは芸者げいしやと呼ばれます。舞妓まいこは芸妓げいこになるために修行をしている若い練習生です。

この公演では、京舞は通常、祇園甲部ぎおんこうぶという地区の舞妓まいこによって披露されます。

祇園甲部の芸妓と舞妓は 18 世紀にかけて形成された京舞井上流の稽古をしています。

その比較的に平和だった時代に、多くの演劇や舞踊芸術が栄えました。

京舞井上流きょうまいのうえは、座敷ざしきという、お客様が歌や舞踊を楽しむ小さな客間で発展しました。

京舞井上流きょうまいのうえは、能に影響を受けており、能の緻密で意味深な、統制された動きの影響を受けています。

また、京舞井上流きょうまいは宮廷で行われた舞踊の優雅な動きも取り入れました。

まずは夜の最初の魅力的な舞をお楽しみください。

京舞きょうまいは、優美な女性らしい動きと、物語を語り、優雅に感情を表現する舞で知られています。

標準的な扇子に加えて、舞手は時々、細長い布、提灯、傘、またはその他の小さな小道具を使用します。

1 つの小道具で様々な物を表すことができます。例えば、扇子はお茶を注ぐ様子を真似ることができます。

京舞きやうまいは、歌うたと三味線しゃみせんの音楽が伴奏します。

若い女性が舞妓まいこになると、彼女たちの修行には、舞だけでなく他のさまざまな伝統芸能が含まれます。

舞妓たちはほとんど毎日お稽古けいこをしており、それには舞や歌、三味線、太鼓、笛、箏の練習などがあります。

数年間、練習生として過ごした後、舞妓は芸妓になります。

舞踊を専門とする芸妓げいこと舞妓まいこを「立方たちかた」、音楽を専門とする芸妓と舞妓を「地方じかた」と呼びます。

芸妓げいこになってからも、彼女たちは稽古けいこを続け、技を磨き続けています。

それでは、名曲、「祇園小唄（祇園の歌）」を英語歌詞とともに楽しみください。

以下は直訳ではありませんのでご注意ください。

祇園小唄（祇園の歌）

東山に霞む月がかかる。

夜毎、かすむ提灯の明かりが、赤く染まる桜を照らし、まるで夢のように甘い。

恋心がなだらかに垂れる着物の袖に隠れている。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長い帯おびよ！

夏には、彼女は鴨川で涼む。たそがれ時に照らされるその首はなんと美しいことでしょう！

唇は大文字山の焚き火のように赤く燃え、秘密の涙はぼんぼりの明かりの中で輝く。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長い帯おびよ！

鴨川の水が少なくなっている。静かな川のせせらぎに、夕方の鐘が鳴り響く。

秋風は暗闇の中、むき出しでやせ衰えただれ柳の間で、泣いている。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長い帯おびよ！

丸い窓の外に静かに雪が降る。長い間離れていた恋人たちは、ついに再会する。

つめたい夜の間、提灯の明かりに影が舞う。

彼らが共にする枕のそばで聞こえる、川千鳥のさえずりは、恋人たちがすぐにまた別れなければならぬことを意味している。

祇園恋しや、祇園恋しや…ああ、揺れる長い帯おびよ！